

# ゲームで学ぶ食品ロス

## 授業で取り入れる学校も

### NPOが体験・説明会を開催

小学生が考えた、食品ロス問題を楽しく学べる「食べ残しNOゲーム」の体験会・ボランティア説明会が、2月13日と15日に地球環境パートナーシッププラザ(GECC)で開催された。関西では、総合的な学習の時間の授業として取り入れる学校も多いというが、関東では今回が2回目の体験会となる。NPO法人Deep Peopleが主催した。

同ゲームは当時小学6

年生だった児童が生涯教

育の学校で作成。食べ残

りの食事を提供すれば食

しによる食品ロス問題に

事代とは別に3000円

ついて楽しく遊びながら

がもらえる一方、多めの

量を提供して食べ残しが

発生すると5000円の

店舗(寿司屋、パスタ

屋、ラーメン屋、パン

屋)から1種を選んでプ

ラスが発生すると最大の損

失となる仕組み。アクシ

ョンカードを使って他店

にハプニングを起こすこ

とができるので、店舗間

の競争や協力プレイが体

験してもらえる。

出前授業ではゲームと

ワーク活用した学習も

同団体では45〜90分の

出前授業も行っている。

簡易的なゲームの遊び方

の動画を5分間視聴して

から、実際にゲームを体

験してもらう。

人数が多い場合は2人

1組のチームプレイも可

能で、子供同士で協力し

ながらゲームを進めるこ

ともある。すでに関西の

小・中・高等学校では、

総合的な学習の時間の授

業として実施する学校が

多いそうだ。

ゲーム体験後には食品

ロスについて学ぶ。同団

体提供の「食品ロスを知

る・考える・行動するた

めのワークシート」を活

用し、食品ロスをなくし

ていく意識が身につく。

プレイした児童生徒か

らは「自分の食べ残しを

減らせば食品ロスも減る

と分かった」「これから

は好き嫌いせずになん

でも食べようと思った」な

どの感想があり、出前授

業後のアンケート調査で

は90%以上の児童生徒が

「またこのゲームをや

りたい」「自分の行動が変

わると思う」とそれぞれ

回答している。

ゲームの詳細や購入に

関する情報、今後の体験

会情報は公式HPで随時

更新されている。

詳細＝[www.tabenoko](http://www.tabenoko)



体験会の様子。アクションカードを使った頭脳戦が繰り広げられた



1セットで最大9人まで遊べる。税込3960円